

正法寺発展興隆奉贊会協賛者御芳名

正法寺末寺護持会総会

正法寺珈琲のパッケージを
リニューアル致しました。
正法寺売店にて販売中です。

平成二十九年度

第一〇三番

禪洞寺様(新)

北海道 第九七番

源福寺様

青森県 第三一五番

觀音寺様

岩手県 第十一番

宗禪寺様(新)

宮城県 第二六七番

興禪寺様(新)

宮城県 第三〇三番

湯船寺様(新)

宮城県 第三四四番

長谷寺様

福島県 第二七〇番

龍澤寺様(新)

(平成二十九年十二月八日) 平成三十年五月三十一日)

(新)印は新会員

末寺護持会等の平成二十九年度収支決算と平成三十年度収支予算を承認し、平成二十九年度の正法寺専門僧堂会計について報告を受けました。また、正法寺発展興隆奉贊会協賛金会計のさらなる充実を図るため、今年度から東北六県の宗門寺院に「大梅」を送付し、協賛寺院を募ることにしました。さらに、末寺へも任意での協力を依頼することになりました。

Free Paper

正法寺だより『大梅』第5号

平成30年 7月1日 発行

発行 / 大梅拈華山 圓通 正法寺 | T023-0101 岩手県奥州市水沢黒石町字正法寺129

URL / shoboji.net

問合せ / 0197-26-4041

Printed in Japan

本誌掲載の写真・図版・記事等の無断複写・転載を禁じます。



大 梅

DAIBAI



Vol.5
—
Free
Paper

曹洞宗師家養成所所員(同)正法寺法堂に於いて

大梅拈華山 圓通 正法寺

御挨拶

山主 盛田 正孝



平成二十九年度 第四回「曹洞宗師家養成所」

平成三十年二月一日～三月一日の二十九日間正法寺専門僧堂に於いて第四回曹洞宗師家養成所が開設されました。厳寒の正法寺で、師家を志す七名の養成所所員が山内大衆と共に修行に励みました。

期間中、師家養成所主任講師静岡県林叟院住職 鈴木包一老師、講師 山梨県泉龍寺住職 大塚雄参考老

師がそれぞれ来山し提唱されました。



寒行托鉢に隨喜する師家養成所所員

末山法類、有縁の方々の絶大な御支援により、平成二十九年二月十五日に開單し若き修行僧をお預かりして思う事は、常に我々の有り様、生き方が問われ続けていると言う事です。世間の眼も厳しく批判にさらされる中、禪僧である事を自からが自己証明出来る様な僧の育成を心に誓い、又願うものであります。曹洞宗は教化集団として舵を切りましたが依然として教化が振るわないと言うのも、元を尋ねれば欣求菩提、即ち求道が曖昧なるが故であります。

僧堂は求道の場であります。教化者に求められるものは「僧としての質」、即ち「如何に求道しているか」が問われています。この事を忘れず、共に辨道し、自他兼濟の道を歩みます。

皆様の御指導を伏してお願い申し上げます。

所感

石川県 観音寺住職 ゲッペルト 昭元

この度は岩手県奥州市水沢区黒石町にある大梅拵華山圓通正法寺が平成二十九年度第4回曹洞宗師家養成所の会場になり、「一月」日から三月一日まで、「第三本山」と呼ばれる正法寺で修行させて頂きました。

貞和四年(三四四八)に開山された東北地方最初の曹洞宗寺院である正法寺は長い歴史がある修行道場です。到着した時、重要文化財に指定されている本堂・庫裏を見た瞬間に伝統があることを感じられました。

一ヶ月の間、色々な修行をさせて頂き、堂長の盛田正孝老師を始め役寮・大衆の皆様方に大変お世話になりました。特に、東北の厳しい寒さの中での本年度の寒行托鉢は強い印象が残る経験でした。

但し、年分の行持だけではなく、日分の基本的な法式・進退作法を始め、月分の開山、歴住、開基等の月忌、略布薩等を綿密に修行する道場だと思います。また、暁天坐禅、夜坐は放参日を設げず、毎日行っておられたので、多くの坐禅修行を出来る僧堂である印象でした。

拝観のお客様や精進料理のお客様もお迎えする為、特に接客の仕事がとても丁寧にされているように感じられました。料理の盛り付けからお客様の御案内まで一つ一つに洗練されていました。

貴重な修行経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。正法寺の皆様方の法身堅固・弁道増進を心から御祈り申しあげます。

ゲッペルト 昭元 九拜



正法寺の春

東京都青松寺同籍 釜田 尚紀

かつて師家養成所主任講師をされていた盛田老師が山主をつとめる正法寺様で師家養成場を開催させていただくことは、我々所員かねてよりの願いでありました。再開單に先立つ様々な準備、模擬運転などでお力添えできればと考えておりましたが、それが実現する間もなく、喜ぶべきことに再開單が決まり、こうしておよそ一年経過の折、寄せていただくことができたのでした。

極寒の二月の体験は想定外でしたが、大衆の皆さんと一緒に動き、様々な配役につき、雪国僧堂修行の端を垣間見ることができたのは大きな収穫です。またとくに、若手役寮さんの熱意に刺激をうけました。大衆のそばで、安心感と、その時、その場、その人に応じた指導を心がけているように見受けられました。お釈迦様より滴々相承されにし正法を敷衍せんと、想いあつき好時節に掛錫させていただき、誠に有難き因縁でございました。

合掌

所感

群馬県 龍門寺住職 喜美候部 繼示

再単正法寺邊春(再単す正法寺辺の春)
北奥風寒隔世塵(北奥 風寒く世塵を隔つ)
雪裡梅花香七朵(雪裡の梅花 七朵に香り)
圓通端坐道安人(圓通の端坐 道人を安んじたまう)

かつて師家養成所主任講師をされていた盛田老師が山主をつとめる正法寺様で師家養成場を開催させていただくことは、我々所員かねてよりの願いでありました。再開單に先立つ様々な準備、模擬運転などでお力添えできればと考えおりましたが、それが実現する間もなく、喜ぶべきことに再開單が決まり、こうしておよそ一年経過の折、寄せていただくことができたのでした。

極寒の二月の体験は想定外でしたが、大衆の皆さんと一緒に動き、様々な配役につき、雪国僧堂修行の端を垣間見ることができたのは大きな収穫です。またとくに、若手役寮さんの熱意に刺激をうけました。大衆のそばで、安心感と、その時、その場、その人に応じた指導を心がけているように見受けられました。お釈迦様より滴々相承されにし正法を敷衍せんと、想いあつき好時節に掛錫させていただき、誠に有難き因縁でございました。

『從容錄』や『景德傳燈錄』、『改訂仏祖正

正法寺幻冬

静岡県 見性寺住職 黒澤慈光

奥の正法禪寺での二月の修行は寒威酷烈を極める。鉛色の空に雪が深々と降り、気温は零下、冷たい風が吹いて凍える毎日。

碧巖錄第四十三則に「洞山無寒暑」という話がある。この話はある僧が洞山禪師に、「寒

「雪の下の花を想う」

滋賀県 甘露寺住職 村瀬行寛

「雪の下の花を想う」――
最早に、正法寺の皆様には、行持は勿論の事、
健康面や日常生活においても、お心遣い頂き
有難うございました。

最後に、「この寒さ何処より来たるか?」喝!
合掌

いるようでした。

貴重な修行経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。正法寺の皆様方の法身堅固・弁道増進を心から御祈り申しあげます。

ゲッペルト 昭元 九拜

「雪の下の花を想う」

滋賀県 甘露寺住職 村瀬行寛

「雪の下の花を想う」――
最早に、正法寺の皆様には、行持は勿論の事、
健康面や日常生活においても、お心遣い頂き
有難うございました。

最後に、「この寒さ何処より来たるか?」喝!
合掌

いるようでした。

貴重な修行経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。正法寺の皆様方の法身堅固・弁道増進を心から御祈り申しあげます。

ゲッペルト 昭元 九拜

再開单から一年を満たないにもかかわらず、

盛田山主老師、諸役寮さまには温かくお迎えいただき懇切丁寧に御指導頂いたことは、私にとって佛道を専に歩んでいく大きな励みになりました。

世情が目まぐるしく変化する現代、我々僧侶も社会との関わりにうまくバランスを保ち、尚且つ不離叢林の精神を掲げ、行していくことは非常に重要であることを今回再認識致しました。そう感じる中で、大切な日分行持公務を任せていたいたこと、大衆の方々のひたむきに行じていく姿を拝見出来たことは私自身の初心を思い出させてもらえる有難い期間でもありました。

高祖様上堂して曰く「雪、蘆花を覆ふて塵に染まづ……」雪に覆われた大伽藍は清く、汚れもなく、寒梅が春の訪れを待っているような、澄み渡った正法寺さまの風景と姿勢を限られた時間で感じられたことと今回、多くの御法縁を頂戴しましたことに深く感謝申し上げます。

合掌

「忙中閑有り」の行持

新潟県 普済寺徒弟 角一大樹

角一大樹 九拜

正法寺の所感

福岡県 安国寺徒弟 高階光鑑

正法寺さまの茶所入り口に「忙中閑有り」と墨書された木札があります。この言葉は、故安岡正篤氏の六中觀の一句として広く知られています。

まず、この度の平成二十九年度第四回師家養成所研修会を岩手県正法寺に於いて、実施さ

山主老師動静報告

『法要関係』

五月十二日 天台宗妙見山黒石寺晋山式 於妙見山黒石寺

六月十五日 神奈川県大通寺本葬儀 於神奈川県大通寺

五月十七日 栃木県両山会講演会 於妙見山黒石寺

三月五日 曹洞宗関東管区教化センター主催 「禅をきく会」

五月十五日 埼玉県大宮ソニックスティ

六月六・七日 岩手県宗務所第八教区寺族会学習会 於正法寺専門僧堂

六月八日 岩手県宗務所寺族会学習会 於正法寺専門僧堂

六月十一日 岩手県宗務所第八教区寺族会研修会 於正法寺専門僧堂

六月十六日 山形県慶全寺大般若會 法話 於山形県慶全寺

六月二十九日 曹洞宗新潟県第三宗務所檀信徒地方研修会 於新潟県ユートピアくびき希望館

せていただけたことを、山主老師をはじめ、役寮さん大衆の方々には心より感謝申し上げます。

研修の始まる当日に正法寺へ向かう途中、お寺へ近づくにつれて雪が徐々に迫力を増します。

正法寺に着いた時には、足が埋まる程の積雪の中に併むお寺の壮大さにただただ口が開いたまま立ちすくむだけでした。研修が始まり、過ごしてみれば、寒い時にはマイナス十度の世界。本当に初めての経験でした。

今回、「謹白大衆 生死事大 無常迅速 各宜醒覺 慎勿放逸」という言葉を坐禅の時に聞いて、あの時からずっと心の中に残っています。今までただ木版に書いてあつただけの文字。この言葉の意味を改めて思い起こし、共に学べる同行同学諸兄弟がいて共に坐禅弁道できる今があることの有難さに改めて気付かされました。これからもこの言葉を心に刻み、日々精進していく所存でございます。合掌。

そして安心して修行できる環境を整えるのは、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

最後になりましたが、貴山でのひと月の修行安居は、大変に有意義な辦道の場となりました。山主老師はじめ、諸役寮のみなさま、雲納諸兄の温かいお心遣いに感謝致します。

が大切です。専門僧堂の生活は、忙しいものであります。現在は、宗門全体で安居者が減少し、修行僧はみな公務に追われているのが実情ではないでしょうか。ややまとすると、どうしてこの生活が修行なのかと考えてしまいます。そのような環境にあっても、安居修行は自身の一大事と頂いて精進してまいりたいものです。

私たち僧侶の生活も正にこの積極的な姿勢が強い意志を感じます。私の心にコツンと印象的になりました。

かなく、ただの忙は心を滅ぼすばかりである。真の閑は忙中にある」と注をしています。日常にふつと一息入れるというよりも、もつと積極的な強い意志を感じます。私の心にコツンと印象的に残りました。

私たち僧侶の生活も正にこの積極的な姿勢が大切です。専門僧堂の生活は、忙しいものであります。現在は、宗門全体で安居者が減少し、修行僧はみな公務に追われているのが実情ではないでしょうか。ややまとすると、どうしてこの生活が修行なのかと考えてしまいます。そのような環境にあっても、安居修行は自身の一大事と頂いて精進してまいりたいものです。

そして安心して修行できる環境を整えるのは、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

は、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

は、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

は、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

は、指導者の責任です。山主老師が掲げるどなたでもいつでも参禅できる場は、僧俗和合の拠り所としての寺が持つ本来あるべき姿を示しているように思います。曹洞宗門の専門僧堂とどのように平行して実現するのか、応援させていただきたいと思います。

● 福山 康道
岩手県 第226番 長林寺徒弟
平成2年生まれ



「修行において自身を見つめながら、何を大切にしていくべきかを考え励んでいきたい。」

● 坂本 一誠
福島県 第267番 東禪寺徒弟
昭和55年生まれ



「仏道を学び、ただひたすら前進したい。」

平成30年度

夏制中 首座法戦式

『従容録』第三則「東印請祖」



四月十五日より首座 松木佑道(宮城県三七三番 東昌寺徒弟)、書記 伊藤裕磨師(岩手県二〇〇番 菩生院副住)、辨事 福山康道(岩手県二二六番 長林寺徒弟)を中心に、夏制中期間に入りました。

五月十八日には首座法戦式が修行され、本師、末山、教区、随伴の御寺院の御隨喜、東昌寺・正法寺の檀信徒の御参加を頂き、満堂の中で『従容録』第三則「東印請祖」について十人の問者と気迫溢れる問答を交わし、見事説破致しました。法戦式が終わっても制中期間は続きますので、首座を中心に山内一同精進させて頂く所存で御座います。



